

16. 石棺（せっかん）

亡くなった人を入れる棺には、木でできた「木棺（もっかん）」と石でできた「石棺」があるの。石棺は木に比べると丈夫だから、亡くなった人をながく守ることができると考えていたのかもしれないわ。

石棺には3つの種類があって、このうち、竹を縦に割ったような形の「割竹形石棺（わりたけがたせっかん）」が最初に現れました。この石棺は香川県の石が使われて近畿地方にも運ばれたの。

次に現れたのが「長持形石棺（ながもちがたせっかん）」です。衣類などをしまっておく「長持」と呼ばれる昔の入れものに似た形をしているからこう呼ばれるの。大王が眠る古墳から見つかるから「王者のひつぎ」とも呼ばれています。この石棺は兵庫県の石を使っているのよ。

そして、家の形に似ている石棺の「家形石棺」が現れます。兵庫県の石や大阪府と奈良県の境にある二上山（にじょうざん）の石のほかに、九州の熊本県の石材が使われることもあるの。こんなに遠くから重い石材を運んでくるなんて、びっくりするわね。